

SFAミッション

公益財団法人 埼玉県サッカー協会



公益財団法人 日本サッカー協会(JFA)理念



サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発展と社会の発展に貢献する

公益財団法人 埼玉県サッカー協会(SFA)理念



われわれは、サッカーを通じて人々に夢や感動を与え、郷土埼玉に
豊かなスポーツ文化を育み、地域社会に貢献するとともに、日本の
サッカーの発展に寄与します

埼玉から世界へ

浦和レッズ、大宮アルディージャを擁し、
全国レベルで“サッカー県”として認知されている埼玉県。
これからは、数多くの日本代表選手を輩出する予感も高まってきています。



2007年、JFA理念をリードする地域協会として、
新たなビジョンを掲げてスタートしました！

SFAビジョン

**「公益財団法人 埼玉県サッカー協会は、
活気と秩序と潤いのある
社会づくり・自立できる人間づくりに貢献し、
地域コミュニティの再生を目指しています」**

- 活気** 誰でもスポーツを始めたら、上達したいと思うものです。そしてそれはスポーツに限ったことではありません。
「やるき」「向上心」は、活動の源になる精气です
- 秩序** ルールやマナーを大切にする気持ちや振る舞い。フェアプレー精神は社会秩序の維持に欠かせません
- 潤い** 優しさ、礼儀、心のゆとり…、思いやりや感謝の気持ち、スポーツマンシップは日常生活や社会全体に潤いをもたらします

求められるのは、判断力を備えた自立できる人間です

- ◆スポーツの特性は、「競争・運動・楽しさ・規範」の4つです
これらは、自由な活動の中で享受できます
- ◆サッカーの全てのプレーの基盤は「判断力」です
刻々と変化する状況に対応し、広く見渡し、先を見通し、
自分の頭で考え、素早く決断し、行動する力です
- ◆自立できる人間は、チャレンジ、失敗や成功、思考錯誤など、
様々な体験ができる自由な環境で育ちます
自立できる人間づくりは、人として、社会で生きていくために必要なことです

2007年から、(公財)埼玉県サッカー協会は、SFAビジョン達成に向けて2つのテーマのもと、8つのミッション(=重点施策)をスタートしました

◆2つのテーマ

- Theme1 PHQミッションの推進徹底
- Theme2 スポーツ精神の啓発と自立できる人間づくり

◆8つのミッション

- Mission1 学校を核にした地域活動、地域スポーツ活動の活性化
- Mission2 M-T-Mメソッドの啓発
- Mission3 ボランティアの協力要請
- Mission4 医学・科学サポート体制の確立
- Mission5 指導者養成事業の拡大
- Mission6 レフェリー育成事業の充実
- Mission7 サッカー施設の拡充(学校開放への働きかけ)
- Mission8 健全運営と経営基盤の確立

2012年度(2008年度から継続して)、 (公財)埼玉県サッカー協会は、SFAビジョン達成に向けて、 次の重点項目に取り組んでいきます

公益財団法人となった今年度からは、公益財団法人に相応しい事業への転換が急務です。(公財)埼玉県サッカー協会は、2つのテーマと8つのミッションに引き続き取り組むと同時に、日本サッカー全体の将来展望と強化に繋がる優秀な逸材を埼玉県から送り出すために、「良い指導と良い環境を与えること」を目指し、「年間を通してのサッカー環境づくり」に重点を置いて事業活動を展開していきます。

2008年度から継続して取り組む計画

組織の拡充

- 各市町村の協会との連携を図る
 - ・情報の共有化
 - ・協力体制の強化
- 他競技団体との連携を図る
 - ・スポーツの教育的役割や学校スポーツの必要性の提唱し、学校スポーツの充実につなげる

委員会の活性化

- ビジョン達成のための具体策を各委員会が提案し実行に移す
 - ・1種、2種、3種、4種、女子、シニア、フットサル、各カテゴリーにおける普及、育成、強化活動につなげる
 - ⇒特に重視する考え方は「年間を通じて、個人・チームの個性を伸ばす環境づくり」をすること
 - ⇒現状としては、3種(特に中学校)の指導環境の整備が急務

公益財団法人元年から重点的に取り組む5ヵ年計画

実戦派指導者の養成

- 実戦派指導者・戦う指導者を養成する
- 2種から1種、女子においては、将来性のある逸材を見出すことのできる指導者を養成する

指導者の質の向上

- サッカーを通して人間教育ができる指導者を養成する
- 4種から3種、女子においては、リーグ戦を通じて指導スキルを磨き、自ら成長する指導者を養成する

トレーニング施設の確保

- 埼玉県サッカー協会独自で、モデルとなるトレーニング施設を保有する
 - ・総務委員会が中心となり、各委員会と協働して具体的に検討する
- 県内市町村の協会と共に、行政の支援を仰ぎ、各地域に人工芝グラウンドを敷設する

Theme1 PHQミッションの推進徹底

PHQ(プレジデント・ミッション)は、JFAが重点的に取り組んでいる施策です。サッカーの普及とスポーツ環境の充実を主目的としており、各種登録制度改革や施設の確保・活用、中学生年代の活性化やキッズサッカー、女子サッカー、シニアサッカーの振興など、日本サッカーの発展のためのミッションが掲げられています

Theme2 スポーツ精神の啓発と自立できる人間づくり

ビジョンで示す、活気と秩序と潤いのある社会づくりはスポーツ精神の啓発を通じてなされると確信し、それはまた、自立できる人間づくりに貢献し、地域コミュニティの再生にも通じます。下に掲げるミッションはすべてここに帰するのです

Mission1 学校を核にした地域活動、地域スポーツ活動の活性化

◆ 教育委員会との協力関係の構築に努めます

地域スポーツ活動の重要性が言われています。

欧米型の会員制スポーツクラブも増加しています。

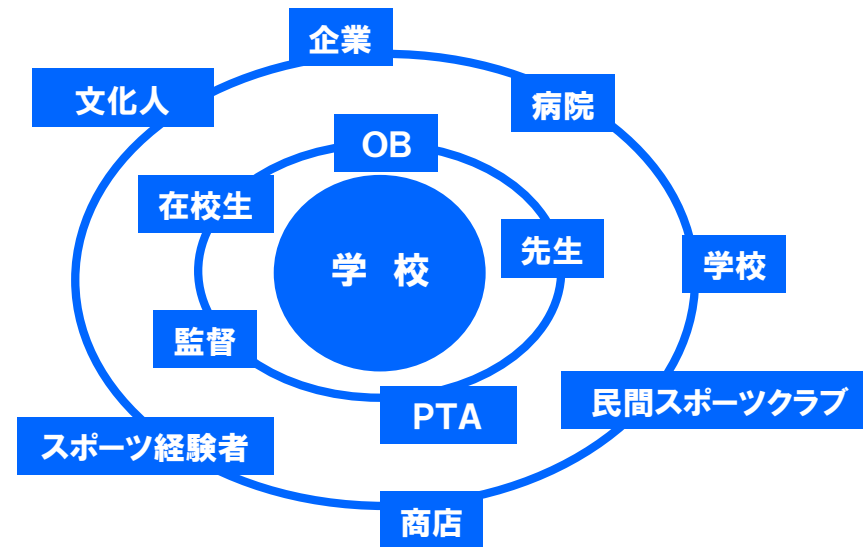
健全な社会生活を考えるときスポーツが担う役割は重要だと多くの人が認識するようになったのです。

しかし、現実には絶対数が足らず、新たな施設には膨大な資金と時間を要します。

日本型の地域スポーツ活動のカギは学校です。

「学校単位のコミュニティに彩りを」

大人も子供も、自由に、
楽しみ、学び、競い合う。



◆ 各市町村の協会との連携を図ります

情報を共有化し、協力体制をとっていきます

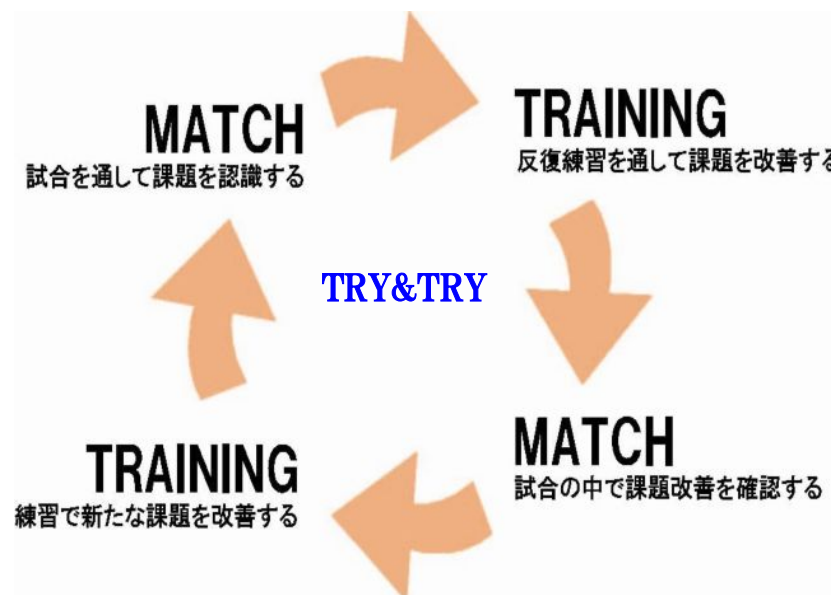
◆ 他競技団体との連携を密にします

スポーツの教育的役割や学校スポーツの必要性を提唱し、学校スポーツの充実につなげていきます

Mission2 M-T-Mメソッドの啓発

Match-Training-Match

- ・試合で見えてきた課題を意識しながら練習に取り組み、次の試合に臨むトレーニング方法です。
- ・トレーニングに対するモチベーション、集中力、理解力が高まり、チームや個人のレベルアップにつながります。



◆ 年間を通じて、子どもの公式の遊び場を提供します

リーグ戦、ホーム&アウェイ、入替戦の形式を採用

- ・リーグ戦は年間を通じたトレーニングです。実践形式でプレーする機会を増やします。
- ・ホーム&アウェイには「招く」「招かれる」という意味があります。人との関わりを学ぶ好機です。
- ・試合の勝敗は一時、人の成長は一生のものです。スポーツに限らず、TRY&TRYで粘り強く生きよう！！

Mission3 ボランティアの協力要請

- 多くの人たちに、地域スポーツの運営に参加していただけるよう理解と協力を仰ぎます
- 地域コミュニティの再生・活性化に欠かせないボランティアとの連携を図ります

Mission4 医学・科学サポート体制の構築

- 学校を中心に、SFAとスポーツドクターの協力体制を構築します
- 医学、科学の指導を試合当日に実施します
- 病院マップ作成や配布等、緊急時の救護体制を整備します

Mission5 指導者養成事業の拡大

- M-T-Mを通じて、指導者全体の質の向上を図ります
- 各カテゴリーに、適正な指導者を養成します
- サッカー技量のみならず、人間教育(指導)ができる指導者を養成します
- M-T-Mを通じ、実践した指導者を評価する体制を作ります

Mission6 レフェリー育成事業の拡大

- 全カテゴリー試合を行うことができるレフェリー数を確保します
- 各カテゴリー、年代に合ったジャッジができるレフェリーを養成します
- レフェリー指導者を養成します
- レフェリーのためのトレーニングセンターを設置します
- 研修会の充実を図ります

Mission7 サッカー施設の拡充

- 県内の全てのモデルとなるトレーニング施設を保有に向けて具体的な検討に入ります
- 学校開放に向けて働き掛けを行ないます
- 使い易い学校施設にするための改善への働きかけを行ないます
- サッカー施設の充実を目指した活動を継続します(SFA東松山サッカー場等)
- 指定管理者制度を取得します

Mission8 健全運営・財政基盤の確立

- 公益財団法人に相応しい公益事業の規模の拡大、かつ、充実を図ります
 - ・パートナーズミーティングを設置し、協力企業の支援を仰ぎ、公益事業の規模の拡大を図ります
 - ・公益事業の規模に見合った収益事業を展開します
- 事務局は各委員会との連携を深め、健全かつ発展的な運営に力を注ぎます